

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 336 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2012.06.26 (火) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 1146 部\*\*\*\*\*

---

□ 目 次 □-----

<巻頭言> スカイツリーへの祝う心と願い 石川 秀勇

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

<編集後記> 表現するって何だろう—首相官邸前デモと福島の田んぼと

---

<巻頭言> スカイツリーへの祝う心と願い

---

高さ 634m、世界一という電波塔の東京スカイツリーが、1 か月前の 5 月 22 日に  
開業した。翌日のある新聞は、“天空の塔 慶祝絵巻”との見出しを付し数多  
の写真を載せ、その状況を報じていた。観光名所の新しい誕生で、とりわけ地  
元・墨田区にあっては人々は喜び、商店など活気を見せてきているようだ。

このスカイツリーの建設は、2003 (平成 15) 年にプロジェクトが起こされ、  
着工が 2008 年夏とのこと。私事だが、この着工から 2 年目の 2010 (平成 22) 年  
5 月に、中学校時代のクラスメートと東京湾のお台場で水上バスに乗船し隅田  
川を両国まで遊覧、船着場で下船して散策、スカイツリーを近くから仰ぎ見る  
スポットにも足を運んだことがあった。この時は、塔の工事は天望デッキのす  
ぐ上のところで行われていた。

そして今年の元旦。例年、妻と二人連れで野田市南部の神社への初詣に、往  
路約 1 時間のうち 30 分ほど江戸川堤防を歩く。その折、雲のない晴わたった年  
は富士山を見ることができ、今年は加えてスカイツリーが眺望され喫驚した。

スカイツリーの立つ墨田区押上の辺りは、西に隅田川が、東に荒川が流れる  
海拔 1m内外の低湿地。江戸期には、北は農村地帯、南は江戸の市街地へと続  
く町場化の進んだ接点に位置するとともに、荒川を越えた東の隣接地 (現在の

江戸川区) では新田開発が行なわれ、米の産地となっていたともいう。

塔の建設では、低湿地ゆえ何 10m もの深さで基礎工事がなされたとのことだ。このことは防災面での安全・安心の視点から、最重要の一つと考えられる問題であろう。

スカイツリーに対して、IT の普及し進展を見せている今日の時代に、このような大きなものが必要だったのだろうかという批判的な見方も、ないとは言えないようである。

こうした疑問と直接には結びつかないが、テレビ等で報じられた悲惨な映像が脳裏に浮んでくる。その一つは 2001 (平成 13) 年 9 月、ニューヨークでの世界貿易センターの爆発炎上の事件。テロリストによりハイジャックされたボーイングが、110 階という高層のビルに激突、死者が 2 千人以上という大惨事となったのだった。

もう一つは、東日本大震災での福島原発 1 号機及び 3 号機で起きた水素爆発における、上部が骨組みのみとなってしまった、何ともいいようのない哀れな建物の姿である。

スカイツリーは、上記のような事件などに見舞われることのないよう、キャッチコピーのいう如く“時空を超えたランドスケープ”であって欲しい、と願わずにはいられない。そのためには、天災面への対策はもとより、人災面から起こる災厄防止への心配りにも万全を期していき、<祈りの塔>のような存在となってくることが願われよう。

石川 秀勇

山崎農業研究所 幹事、千葉県野田市在住

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

---

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

---

山崎農業研究所所報『耕 No.127』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布 (有料: 1,000 円) いたします。

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

農地の放射能汚染問題の解明◎塩沢 昌

[第 37 回研究所総会・総会記念シンポジウム]

■総会記念シンポジウム「東日本大震災と農業・農村」

(1)東日本大震災による農業インフラの被災状況◎渡邊 博

(2)福島—希望への道筋を探りながら◎戎谷徹也

(3)風評被害を乗り越える経営力を求めて

—東海 JCO からフクシマ◎照沼勝浩

[特別寄稿]

放射性物質汚染の過度な危険視が農業復興を阻む◎西尾道徳

土壌生成理論・腐植前駆物質による放射能汚染対策の

可能性について◎高味充日児

〈連載〉畦道・赤トンボのナショナルリズム [18・最終回]

情愛のふるさと／宇根 豊

---

<編集後記> 表現するって何だろう—首相官邸前デモと福島の田んぼと

---

先週末（06/22）、首相官邸前では大飯原発再稼働に反対するデモが行なわれた。参加者数は主催者発表で4万5千人。3月末に開始した時点では数百人規模であったが、回を重ねるごとに参加者はふえ、先々週（06/15）で1万人を突破、そして先週末には4万人を超える多くの人が集まった。

このデモについて地方在住の知人と話していたときのこと、彼がふともらした。「都会のひとはいいですね。デモのような表現する場があるんですから」と。

なるほどそうかもしれないな、と思いつつ、わたしは最近訪れた福島県のことを思いだしていた。地域差はもちろんあるはずなのだが、わたしが訪れた二本松市周辺では、目にはいる範囲の田んぼのほとんどにイネが植えられていた。知人の言葉を聞きながら思ったのは、百姓が田んぼをつくりつづけること、コメをつくりつづけること、これもまたかたちを変えた“表現”なのではないかと。

作家・石牟礼道子氏のエッセイのなかで、『あの人の畑は美しか』と言ってほめるのがあたりまえのようにしてあった時代があった...』というような文章を読んだ記憶がある。福島の田んぼもわたしの目にはたいへん美しくうつつた。その美しい田んぼや畑に放射性物質をまきちらした東京電力福島第一原発事故はどれほど罪深いことか。

米への放射能の移行は、昨年であっても事前に予想されていた数値を大きく下回った。しかしそれでも福島の米は販売面で苦勞する状況が続いている。だが、それでも米をつくる。田んぼを、畑を耕しつづける。これは首相官邸前のデモに匹敵する行為＝表現なのではないか。

2012年06月25日

山崎農業研究所会員・田口 均

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎辻信一さん(文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん(大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん(長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん(拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん(イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

1、件名 (見出し) を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字 (機種依存文字) のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----  
次回 337 号の締め切りは 07 月 02 日、発行は 07 月 05 日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 336 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2012.06.26（火）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*